

広報かわにし

発行所 川西町役場
 発行者 川町町 中村壮吉 一社
 (町長 北村準風 5部)
 編集人 白南 1部
 印刷所 白南 1部
 定価 1部
 人口の動き (8月1日現在)
 男女 7,189人
 計 7,352人
 世帯数 1,454世帯
 2,757世帯

七月災害のつめあと

水禍の総額八千五百万円

本腰入れる復旧対策

毎年やってくる天災。七月十三日明けがたから十四日にまたがることしの豪雨は、町に被害総額八千五百万円といつめあとをのこしてとおりすぎた。

過去二年つづいた災害の回復がならぬまま、あらたな水禍にみまわれたいま、早急に復旧が実現化するよう、関係者間では準備がすすめられ、一昨八月開かれた町議会でも国、県、町費の災害復旧補助対策が審議されている。

これまでに判明した被害の状況は、農林関係が八千百万円、土木関係では三百八十万円(県道九十万円、町道二百九十万円)と推定されている。

被害は橋に集中

木落、水びたし

直接災害の原因となった十三日の降雨は、橋一四九ミリで最高を記録し、一手の一〇五ミリがもっとも少ない。この差がそっくり二日間の合計雨量の差となって、地域別に二五〇ミリから二〇〇ミリの豪雨の結果が小河川の氾濫をよび、町の北部を中心として、橋地区に致命的な損害を与えた。

水田の流失や埋没はもとより、土砂くずれなどが続出して、農家にとってはこれまでの苦心も水のあわ、また一般家屋も床上浸水三戸、床下浸水五七戸に上り、とく

被害推定額

に木落部落では道路を寸断されて一時は離れ小島の観を呈していた

農林関係	七ヘクタール
農地	三八ヘクタール
埋没	七ヘクタール
計	六〇五万円
農業施設・工作物	五、九四三万円
水路(一三、四一五メートル)	一七〇万円
農道(三一五メートル)	八〇万円
頭首工(二五カ所)四〇〇万円	
橋梁(四カ所)	

農作物

計 六、五九三万円

流失 二一〇万円

理没 五四〇万円

冠水 二〇〇万円

計 九五〇万円

土木関係

計 二、二八九万円

道路欠陥・崩土 二一カ所 九〇万円

●町道
 道路欠陥、崩土 一五九万円
 橋梁・暗渠 六一万円
 路面流失による修繕費三〇万円
 河川堤防欠陥 三九万円
 計 五七九万円 二八九万円

●県道
 道路欠陥・崩土 二一カ所 九〇万円

組合費

町は三〇万を負担

桐谷小中学校組合予算
 高柳町と川西町の学校組合会議、教育委員の合同会議は、七月二十九日桐谷校で開かれ、この会議で、昭和三十五年度の学校組合予算(桐谷小、中学校関係)が決定した。

これによると、才入才出とも総額は九十三万九千五百円、昨年より約二万円の増となっている。

才入では全体のほぼ八〇パーセントをしめる組合費は、高柳町四十五万円、川西町三〇万円の割合で負担し、委託料の対象となる松代町桐山からの通学児童生徒は十九名で、一名あたり一千五百円の計算となっている。

才出の部では中学校のピアノ設置費三十二万円がめだつが、これには十万円の寄附が見込まれる。予算の内訳は下表のとおり。

科目	予算額
1. 組合費	750,000
2. 国庫支出金	58,000
3. 委託料	28,500
4. 繰越金	3,000
5. 寄附金	100,000
計	939,500

学校教育と社会教育

以前なにかの機会で、「学校教育」と「社会教育」の結びつきをとりあげた講演にせつしたことがある。双方が車の両輪になつてはじめて生活の可能性とか、社会の向上がぞめる。そんな意味をかなり専門的にふくくほりきけていたから、そのときは理解しにくいまま忘れてしまつてた。

しかし、だれしもが学校教育をいかみたり、いろいろな団体をとおして社会教育の場にもふれてみると、おほらかならぬ両者の結びつきが必要なのに考えおよぶたろう。

それほどのよくなかたちの結びつきかとなればそれなりに角度が生じてくるかもしれない。

町では、さきごろ文化財総合調査報告書「かわにし郷」を出版しているが、そんな動きにつれてこれをいかに編纂しなおし、教材として学習に利用するよう計画が、学校の先生たちの間でとどまらなかつた。

もし「かわにし郷」が、内容もあらたに、学校の教材として実現するならば、児童や生徒にとって、

科目	予算額
1. 議会費	22,000
2. 役場費	3,000
3. 教育費	892,000
内 委員会費	(13,000)
小学校費	(349,000)
中学校費	(530,000)
4. 予備費	22,500
計	939,500

町づくり

町では、さきごろ文化財総合調査報告書「かわにし郷」を出版しているが、そんな動きにつれてこれをいかに編纂しなおし、教材として学習に利用するよう計画が、学校の先生たちの間でとどまらなかつた。

もし「かわにし郷」が、内容もあらたに、学校の教材として実現するならば、児童や生徒にとって、

わたしたちの社会生活が、長い歴史的な経過をたどつて現在になつてきていることをこのうえなく身近かに理解させるたろう。すでにある教科書には望めない川西町の歴史のなかで、発展途上の個人とか、集団の役割りを考えさせることも可能に思う。

やがて学窓を巣だつ子どもたちは、よい伝統をうけつて心がまえ生活の進歩にたいする責任感を、これ以上はない適切な例として、かつての町の事実のなから学びとれるし、さらに町を愛する気持を養ふことすらうかがえる。

こんな例は、社会教育の仕事の分野と、学校教育の結びつきをうんぬんする考えかたのひとつになると思うがどうだろうか。

また「学校で優秀な成績だったものは、とくく実社会ではバツとしないようだ」と、なにげなく語られていたのを耳にする。このきめつけたような表現が、学校教育と社会教育のつながりにまでふかき考へてのことでなくとも、ほんのりな態度のなかで、両者の不可分なことを否定した意識がふくまれているように気がつかうのだが……

ここでは、ただ両者の実際的な教育が、いっそう実を結ぶことに思いをよせたい。

町議会報告

災害復旧は町営とする

請願五件を審議

災害復旧会ともいふべき第六回町議会臨時会は、八日招集された。この日は二十三名の議員が出席して、午前十時五十分に関会。請願五件①町営工事による災害復旧に関する請願(採択) ②川西コンニヤク組合精粉加工施設工事に関する請願(産経委員会付託) ③伊友第五組小規模水道施設補助金交付請願(採択) ④野口上村水道施設工事費補助請願(採択) ⑤山野田川氾濫防止築堤かさあげ施行かた請願(採択)を審議して、午後二時四十分に関会。ひきつづき全員協議会にうつった。あらまじは次のとおりである。

町営工事は はじめ

はじめて

「町営工事による災害復旧に関する請願」については、これまでの現地調査、災害地区区長との協議の末、町長、議長によって報告され、このたびの災害は、特徴として局部的であり、しかも同一地区に対する三年連続のものである点から、復旧にあたっては根本的な改良工事としておし進める必要があることに問題を集中、統一した警備工事を実施するため、北沢川、栗沢川、取安川(以上橋)、わらび島、下ノ沢、小沢、沢尻(以上仙田)の七主要施設を町営による復旧工事として実施することに可決された。これは町としてははじめての町営工事となるが、この場合被災者が自分だけの考えかたでやるのとは異なり、河伏整理にとりまわって個人的利害も表面化するし、また国鉄第四期工事終了後、町は交付税の不交付団体になることが予想され、そのあか

その他採択三件

委員会付託一件

採択となった案件のうち、伊友第五組小規模水道と、野口上村水道のそれぞれ工事費補助請願については、さらに補助の比率などに検討を加えるが、主として資材費方面に町費補助がむけられるものである。産経委員会付託とされた「川西コンニヤク組合精粉加工施設工事に関する請願」は、現在の貯蔵庫につけて、とび粉室を増築する計画のもので、総工費九十万円のうち農林漁業近代化資金による融資見込み七割の残り三割を町から助成してほしい趣旨である。

十七日に町民大運動会

第一回は千中グラウンドで

初優勝は? 地区

大会種目

青年団 駅伝も

四地区あわせて、待望の町民大運動会が、きたる十七日千中中学校グラウンドで行なわれる。すでに一週間後にせまったスポーツの祭典。各地区とも優勝の目標を胸にひめて、準備におこたらない毎日と思われる。以下、栄冠の夢をおいながら大会のあらましにふれてみると、種目は以下のとおり

- 中学生リレー 消防団競走
- 四百米リレー 八百米リレー
- 四百米競走 砲丸投げ
- 四百米競走 お支度競走
- 〇アベック競走 千六百リレー
- 〇アベック競走 玉入れ競争
- 〇パン食い競走 年令別リレー

町が主催するこの大会は、公民館の主管、町商工会、青年団、婦人会の三団体が後援として、それぞれの立場で協力している。

戸籍の窓から

うぶ声 御すこやかに

- 柄沢 信 沖立 一郎 長男
- 清水 利美 霜 条 久夫 長女
- 喜多 恭子 学校町 順作 長女
- 平野 雅浩 四郎兼 富一 長男
- 和久井敦司 木 落 桂治 長男
- 田口 一浩 木 落 寛一 長男
- 大平 幸徳 原 田 喜平 長男
- 根津 和夫 原 田 三男 二男
- 田中 哲夫 小白倉 茂 三男
- 上村 英子 元 町 寛治 長女
- 高橋 大 小根岸 菊松 長男
- 田村 義次 星名新田 文作 二男
- 川崎 育夫 越ヶ沢 延夫 三男
- 星名 勝 越ヶ沢 得司 長男

昇天 御めい福を祈る

- 小林 三雄 中仙田 定二 三男
- 川崎 松美 越ヶ沢 松五郎長女
- 小林 絹江 中仙田 栄作 三女
- 佐藤 真 小脇 喜久治 三男
- 高橋みい子 高倉 八十治 三女
- 中村三代吉 坪山 八二
- 白井 ツキ 中屋敷 七八
- 押木 豊治 元 町 七八
- 高橋 ハナ 三領 三八
- 石田 キミ 上野 六七
- 山田 正久 仁 田 三六
- 高橋ツネ子 高倉 四
- 登坂 和雄 岩 瀬 〇

たかき 御円満に

- 新郷 登坂 三吉 岩瀬
- 新郷 高橋 キユ 高倉から

仙田地区に 無料バス

大会のため、とくに仙田地区には二台の無料バスを運行します。他の地区にくらべ参加条件を考慮したもので、中仙田発が朝の八時三十分です。利用していただき、ただし無料は片道だけ。帰りは午後五時千手発の仙田ゆきも臨時増発されますが、こちらは有料。大会気分の色どりをそえる応援団席は、抽せんの結果各校側から桜の木にのって上野、橋、仙田、千手の順。選手が使用するハチマキの色も、千手黄色、青は上野、赤は仙田、緑色が橋となっている。事務局でも準備にいそがしいこの第一回町民大運動会が、明るく楽しいひとときとなるよう、みなさんの協力がまたれます。

ふるさと

ことごとそは、災害問題をとり上げなくてはならず、七月十三日の豪雨でこの願いは一ぺんにけしとんだ。二度あることは三度あるという。昨年とたつた一日違いということも偶然とは信じられないほどだが、被災地の片よりかたは昨年よりいっそうひどい。今度の場合は端的に橋、白倉災害といつてもいいものだ。取安沢、北沢、南沢、小沢等の惨状は過去三回のうちで最もひどい。血のじむような復旧を続けて来た所もあとかたなく流失し、復旧の力の及ばなかつた所は、それに輪をかけていためつけられた。中には家運を傾けて数十万を投じ、災害直前の十二日に辛うじて完成した遊歩を一日にして流失した気の毒な例もある。しかも、三年連続で来た災害が、来年からは来ないという保証はどこにもない。百姓がいやになつたとか、耕地を捨てて逃げ出したとかいふことは災害のたびに聞くことばだが、こゝとは逆にそういうことを軽々しく云わなくなったのは事態がそれだけ深刻になったからだ。従来の復旧方法についても根本的に考え直さねばならない段階にきたわけであるが、そのため町では地元の要望に答えていよいよ町営による復旧工事を施行することになったという。河伏整理を伴う施設工事はおそらく数千万円という空前の事業量になる。施工に当たっては有形無形の困難が続出するであろうが、それらを克服してこの大事業を完遂したい。(M)

TVドラマ

「霧は晴れたり」がさそう佳話

東京のへき地へ友愛のプレゼント

十日町高校定時制仙田分校がテレビドラマの舞台として全国に紹介され、カメラがとらえたへき地の姿によせるはげましの気持が、東京の一人から、数回にわたる贈りものとなってあらわれた。ささやかながらも、心のこもったこの行為はいまだにつづけられている。

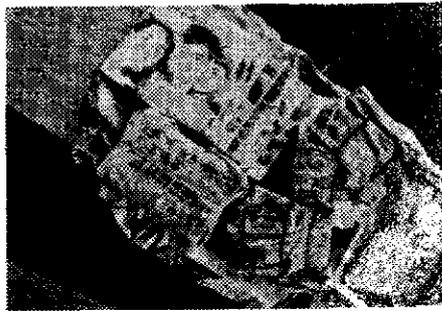
この日の一月も下旬のこと、定時制高校仙田分校主任の保坂安太郎先生は、見も知らぬ一人から送られてきた雑誌、絵本の包みを見ながら、おきのどくに思ふ「旨したためたこの手紙で、先生はようやく納得がいったのである。

それは雪の難路をいとわぬ生徒募集の苦心であり、昼夜を分かたない授業に、献身的な教育者夫妻の映像を鮮明にうきだし、その

仙田分校創立時の背景

暗しは昨年十二月、暮れもおしせまった二十一日までさかのぼる。

この日、日本教育テレビが企画したドラマ「霧は晴れたり」の放送は、三年前に宮村聖弥氏(当時県定時制高校指導主事)の書いた同名小説を脚色したもので、内容は昭和二十三年から二十四年にかけて創立まもなくした仙田分校の遅々たる歩みのなかで、保坂先生夫妻が、へき地の教育とどのようにとりにくんだかを、記録的なタッチで劇化していた。



それは雪の難路をいとわぬ生徒募集の苦心であり、昼夜を分かたない授業に、献身的な教育者夫妻の映像を鮮明にうきだし、その

有志の協力で

悩み解消

青年学級自動車コース

背景には、授業料の負担にあえぐ貧しい生徒の家庭や、ただでさえ衣食住にとほしいところ、終戦直後ともなればすべてにことかく素村のようすが、画面にくまなくえがかれ、見る人に辺地教育の実情を深く訴えている。

すてに四回の贈りもの

この放送がきっかけで、はからずもへき地の実情に同情をよせた

送り主の名は、東京都品川区豊町四の二五〇に住む清水恵子さんとあり、この人からの贈りものは、二度目のスポン、セーター、くつ下など衣類二十数点後もひきつづいている。

すなわち最近では、七月十五日と二十六日の二回にわたって、子ども用の夏服、女ものの衣類を三十点のほか、雑誌、絵本の類が、いずれも困っている人という気持ちにそえて送られてきた。

保坂先生から連絡をうけた町社会係では、さっそくこれらの品物を仙田地区の貧困家庭にまわすとともに、清水さんあてには、社会福祉協議会で感謝の手紙を出すなど、たびかさなる善行にこたえて

この清水さんがどんな人なのかまだわかっていない。川西町にゆかりの人でもあるのか、あるいは、名もなくますますしくとも、心ゆたかな人に思われてならない。(写真は贈られてきた品々)

適正な家族計画を

農村家庭の約七〇パーセントが子どもさんとかききました。

町でも家族計画は普及しているようすが、それも町場

や上流者の家庭にかぎられ、貧困者や農家の一部では、昔と同じように生み放題が続いているのではないのでしょうか。

夫の協力が得られないままに、疲れきった身体で産み続けるおかあさんたち。そんなことから母体が弱って、保護世帯に転落する例も少なくないようです。

指導員とよく連絡をとって、健康で、優秀な子どもを育てるようにはいたしましょう。

美しい郷土に (上野 若い母)

町のあちこち、いたる所に宣伝の紙やポスターがはられています。はるなというのではありません。

田中三郎さん談 「学級生は非常にまじめで、りっぱな青年たちばかりです。法規も構造も実技も、今のところわたくし一人で担当していますが、これまでの受験成績もよく、九〇点以上をとっているのが合格率は十割。ことしになってから学科を二十六時間、実技は十八時間やっていると、車のないのが悩みで、四輪車はことしもまた北村栄作さん(金盛鉄工所)の深い御理解と厚意で、忙しいなかを貸していただき練習している。ありがたいうことです。耕運機の実技を一回やったが、この方は平野徳治さん(平野鉄工所)の厚意で貸していただいた。学級生とともに心から感謝申しあげている。

技術を身につけるのは非常にブラスなことですから、御父兄のかたがたからも、学級生に対して御理解と協力をお願いしたい。」(写真は学級生の練習スナップ)

健康優良児きまる 千小は九回連続

この日の郡市健康優良児童、同じく学校表彰の審査結果がこのほどまとまった。町関係では、仙田小学校 佐藤隆君が児童の部、千手小学校は学校の部とともに一位となり、このうち学校表彰では、すでに昇審査会も終了して、千手校は九回連続、県の健康優良校に決定された。なお佐藤君も、郡代表で近く開かれる県大会にのぞむ。管内学校別の健康優良児童男女代表は次のとおり。

千手小・増田 勉・高橋 桂子 上野小 清水 正樹 富井久美子 橋小 吉井 正夫・原 世津子 中仙田小 高橋啓一・小林みさを 仙田小 佐藤 隆 斉木ユキノ 赤岩小 中条 益治 高橋紀美子 白倉小 江口 恒博 片桐 佐代 (・印は那の準優良児童)



町青年学級が自動車コースを開講したのは昨年のこと。ことしもこのコースはきわだった存在として千手、上野、橋の学級生あわせて四十五名が、夜間農業センターで学科のほか、ひるまはサーキット・グラウンドで運転実技を熱心に受講している。

それというのも、最近のめまぐるしい機械力伸長の結果、単に自

郡市社会教育大会 一七・二四一 P.T.A部会に参加して

杵淵 新治郎

この大会は「郡市の社会教育関係者や一般のかたが集まって、日ごろの悩みや、実践のようすを話しあい、これからの活動やくらしに役立たせたい」趣旨にそって、結論をいそがず、できるだけ話しあいをおしすすめてゆくことに力がそそがれていました。

P.T.A活動は

このままでいいのか

このままでいいのかという表現が、P.T.A活動の全体をみてのものか、その一部についてかはともかく、いまのままでよいとする肯定の面、これではいけない立場の否定、このふたつの面が含まれているように思う。ひとつは現在の活動をそのまま進めてゆくことがP.T.A本来の目的にそってとみてであるし、かたや活動はしていても、なにか満足できない態度をしめしている。もちろんこれはそれぞれP.T.Aによって異りあるいはP.T.A自身、問題により時期によって違ってくる。

これはむしろP.T.Aがどんな団体か十分に知る必要がある、一般に父兄と教師の会と呼ばれ、教育団体として子どもの幸福をねがう自発的な協力から、家庭、学校社会において、子どもの身心を健全に発達させ、その福祉を増進することに目的があれば、「活動はこれでいいか」という問題は、そ

話しあいが要求される

活動や問題解決には、いろいろな方法のなかから順序をきめて、一步一步確実に進めてゆくのがかなりで、そこには会員がよく事態を理解し協力をよせる空気が必要とされる。話しあいの要求されるのもじつにこの点にあって、親として、教師としての立場で、子どもの幸福を思う心が結びつくのも、卒直で具体的な話しあいの場にして可能となる。またP.T.Aの自己研修のための活動も、子どもへの愛情にむかしてこそそのまじい。

親子の

考えかたのズレは

学校のことだけでなく、生活のなかで子どもとの問題をとりあけるのもP.T.Aの学習活動にとって大切と思う。たとえば親子の考えかたにずれがあつて、親はずいぶんからず憤りをおぼえ、時代の推移が嘆かわしいことすらあろう。「古い」といわれて、それでは何が新しいのか、「封建的」ならばどう考えるのがそでないのか。このことは親として苦悩にみちた人生をあゆみ、深い体験にもとづいた自信をもって、考えかたのずれが調整されるとき、子どもたちの精神形成には大きい力になるからである。その過程にP.T.Aの場が提供されるのはじつに重要とする

夏休みの問題

いま学校は夏休みである。P.T.A総会、役員会はいづまでもなく部会P.T.A、学年P.T.Aなど組織



夏の風物詩「パンガロー」

(師黒城、北端の城郭跡に地元保存会と商工会の協力でパンガロー(2間×3間)ができあがった。前方に妻の平野を一望にながめ、うらて遠く黒煙の山なみそをのぞんで、たままない松風にいまはむかしをしのびたい。若人にとってはキャンプも夏の涼味をさそうひとつ

をあげて、運営の可能なかぎりをつくして、夏休み中の子ども問題にとりくんだと思うが、ひとえにこの期間が一日中子どもと共に生活できるときであり、いろいろ話しあつてゆける機会、子どもたちの世界にとびこんで、その考えかたや、もの見かたを観察する自然の機会であることに心がけていたきたい。

◎水泳◎生活規律の問題がある。◎宿題の量◎学習と家事の手伝い遊びの問題もある。これらはすべて各P.T.A、学校ごとに対処方法を具体的に研究されたことでしょうか。それがいま実践されているのです。子どもたちが健全な成長をみせること、不幸に泣く一人の子をもなくするところにP.T.Aの活動がある。そんなことが痛感されたようです。

町の掲示板

役場のお盆休日

十五日、十六日にきまつた。十七日は町民運動会で役場職員もほとんど大会役員にまわりますからおふくみください。

講演会のお知らせ

町身体障害者互助会、みどりの会主催の講演会が二十一日午後一時から中央公民館で、講師は元長岡ろう学校長、福本方尚師。会員、一般の参会をのぞんでいる。

ラジオ農業学校

◎二十五日 保存食の作りかた
◎九月五日 ことしの稲のできぐあいをみよう。

新農村建設青年研修会

十五日から二十三日まで県立加茂農林高校でひらく。対象は十八才から二十五才までの青年、内容は土地調査、地籍調査の学科、実習です。希望のむきは農林係へ。

警察異動

八月機構改革で千手巡査部長派出所はなくなり、あらたに川西巡査部長駐在所、同巡査駐在所を併置、橋駐在所は仁田駐在所と改称(上野、仙田はこれまでどおり)五日付で千手巡査部長藤田省三氏は十日町本署勤務、後任には大越清作氏(土市)

郡市青年学級生大会

九月四日川西町でひらく。講師は物色中。これにききたち二十三日は町学級生大会を千手中学校でこの方は山田沖哉氏に講師依頼中

旧軍恩受給権者は年額改定請求を

昭和二十八年に旧軍人恩給が復活されて、普通恩給または普通扶料の裁定を受けたかたは、このたびの恩給法一部改正で、軍隊に勤務した実在職年は、すべて通算して恩給が支給されます。これまで裁定になっている恩給や扶料の在職年のほかに、一年以上の算入されていない軍隊勤務年数があれば、これを加えた年額が本年七月から改定支給となるものです。

これに該当すると思われるかた(いま請求中であれば裁定になったから)は、はやめに申し出て請求手続きをとってください。(社会係)

かわにし俳壇

金山 柏樹選

越ヶ沢 辰治
名月に蛭飼の灯うすよこれ
小白倉 香坊
植えし田の夕大焼けとなりけり
中仙田 遊人
合歡の花映りてゆるき流れかな
小白倉 正信
つぎつぎと蝸なくや西日中
小白倉 緑風
蝸にせかるくこち馬草刈る
元町 鉄平
蝸の声しきりなる山下る
霜条 白濤
熱れ桃を月のむささび盗み食う
☆ ☆ ☆
◎金子さんは社教という仕事を、本紙の編集に生かしておられたようです。ピンチヒッターながらも、社会教育と学校教育が、二カ月間ケイヤク結婚した。そんなフアイトはもってみました。
◎結果はごらんとおりみごとながらぶりです。広報という名のピツチャーに気おくれがして、あせりがさきになったようです。
◎立秋(七日)がすぎたというのに、それはごよみのこと暑さはいまが盛りです。でも秋草がちらはら咲きそめるものこのころ、しばらくおしのぎください。秋来ぬと目にはさやかに見えねども、風の音にぞおどろかれぬ(古今和歌集)